

## 設計意図、建築・設備等の概要説明

---

### ◆ PATH―「気積」の開放

PATHは、2010年3月に竣工した。代々木八幡駅より徒歩10分程の都心に位置している賃貸集合住宅である。当初、地上階のみの計画案を模索するところからスタートしたが、採算ラインとなる賃貸面積を確保できないことが判明したため、地下階の有効活用を全面的に採用した。地下の有効利用計画を進めると、地上階は3階建の分節型配置が可能となり、コンパクトなイメージの施設とすることができた。住戸間にある廊下を外気に接する開放廊下として扱い、余った敷地の気積を街並みへ還元した施設である。

### ◆ 地下を地上階として計画

大小のドライエリアを設け、地下階の住戸と共用廊下全域が外部を視認できるように構成した。南北ドライエリアは城郭建築の堀のような効果を持たせ、セキュリティー確保のバッファゾーンとした。又、ドライエリア上部グリーンフェンスとの相乗効果により、静寂なプライベートエクステリアとして室内と連続した広がりを感じる空間を形成させた。竣工後の入居者応募プロセスでは、地下住戸のほうから先に入居者が決定した。

### ◆ 鉤型による住戸の構成

多様化するライフスタイルへの回答として、多彩な住戸プランの提供を考慮した。住戸マスの分割方法には間口巾の違う住戸を組み合わせ、間口の狭い住戸には南北に高窓を設置し採光と通風の確保を行った。先端梁を持たない壁式構造の採用で全面ガラス張りとし、プライバシーや自然光の制御はエンドユーザーに委ねることとした。

### ◆ PATHとは

4つのマスで構成した住戸配置は、正方形に近い敷地形状の有効活用の答えであり、マスを繋ぐ十字型廊下を住戸へ至る公道の延長をイメージして設計した。木製デッキで仕上げ、廊下幅員を2.8m（3間）と2.0m（2間）とした廊下内に、直通階段、エレベーター、自転車置場を取り込むことで通行以外の「空間的よどみと界隈性」を造りだし、街並みの「小道（PATH）」とすることを意図した。

---